



芯研器

しんけんき

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数
字



芯研器



上・芯ホルダー
下・芯ホルダー用替え芯

概要

芯研器とは、芯ホルダーを使用する際に、芯先の形を整えるための道具です。（鉛筆の芯先にも併用できるタイプもあります。）一般的には、ヤスリ状のもので芯先を研磨する芯研器が多く見られます。

ヤスリを使用した芯研器で代表的なものとして、小さい箱の中に板ヤスリが付いており、そのヤスリで自分の必要とする形状に芯先を研磨するタイプがあります。板ヤスリ式の芯研器を使う際には、片手で机などに芯研器を固定すると安定して研ぎやすいでしょう。削った後は付属しているスポンジで研ぎカスを拭き取ります。この板ヤスリ式の利点は、円錐型、平型など自分の好きな形状に芯先を整えることができる点です。また芯の太さを選びません。もう一つのタイプとして、バケツのような形をした芯研器もよく見られますが、こちらも内部にヤスリが組み込まれており、そのヤスリで芯先を削る構造になっています。このバケツ型のものは円錐形に芯を尖らせたい場合に、素早く削ることができます。製品によっては、芯の先端の尖（とが）り具合を選べるものがあります。製図では、実線・破線・鎖線を使い分ける必要があるのと同時に、線の太さにも意味があり、例えば寸法線は細い実線、外形線は太い実線で表されます。そのため、芯の尖り具合は大事な要素の一つとなります。このバケツ型の芯研器も、手に持って使用するよりも固定したほうが削りやすいでしょう。

ヤスリ状のもので研磨する芯研器以外では、刃を使用したタイプがあります。これは携帯式鉛筆削り器に使用方法がよく似ています。芯先を穴に入れて、芯ホルダー本体を回して使用します。大きさは1～2cmほどの小さいものもあります。芯研器には、対応する芯の太さが決まっているものがあるので、購入する前に、自分の使用している芯ホルダーの芯の太さを確認しておきましょう。また、いずれの芯研器も、使用後は研ぎカスを掃除しておきましょう。芯研器は大型文具店、画材店などで入手できます。

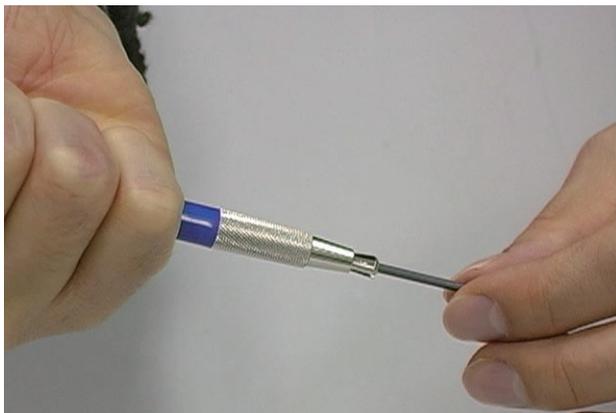
芯ホルダーの使い方



手順1. 芯の出し入れは、ロック部分(親指)を押しながら行います。



手順2. ロック部分(親指)を押しながら、小さな穴に芯を挿し込み、芯の長さを調整します。



手順2. 芯を使いやすい長さに調整します。



手順3. 芯の長さを変えないように、芯ホルダーごと大きな穴に挿し込んで、回転させて削ります。(この写真では、左手は本体を固定、右手は石臼をひくように回転させています。)

芯研器の使い方 (例1)



手順1. 写真中央部の2つの小さな穴で、求めるとがり具合を確認します。(この製品では、左側の穴は芯先を鋭く、右側の穴は芯先をやや太めにしたい場合に選びます。)



手順4. スポンジ部分に芯先を挿し込んで、砥ぎカスを落とします。



手順5. 芯先を鋭く削ると左、比較的太めに削ると右のようになります。

芯研器の使い方 (例2)



手順1. 芯先を左右に動かしながら、必要な形状やとがり具合に整えます。



手順2. スポンジ部分に芯先を挿し込んで、研ぎカスを落とします。